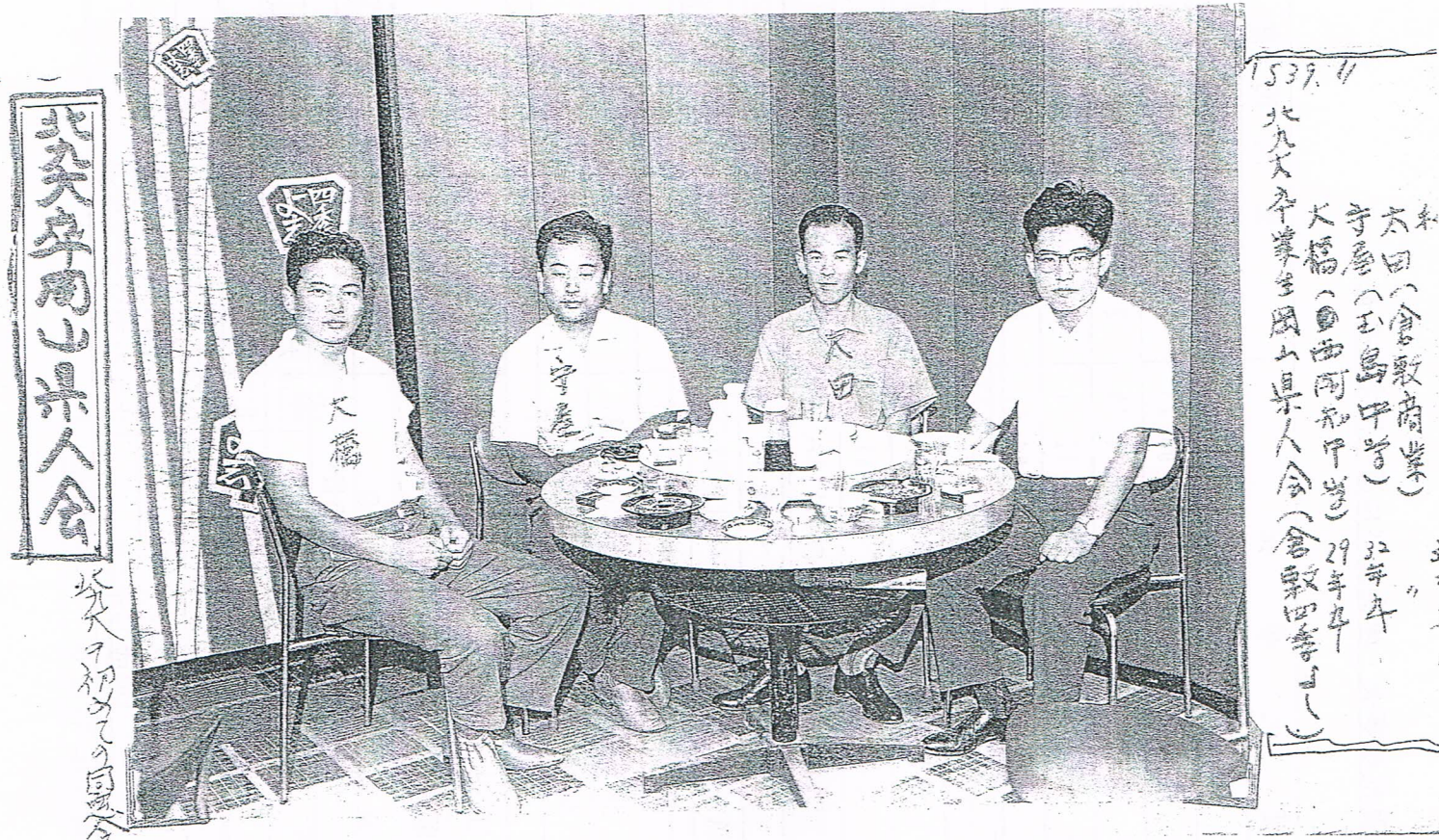


資料-2

北九大卒岡山県人会第1回会合（開催日：昭和39年10月29日）



左から大橋武志（初代岡山全県支部長）、守屋知夫（第2代岡山全県支部長）
太田道利（第1代岡山支部長）、遠藤昌澄（初代津山支部長）

当時の太田道利の言葉（大学同窓会50年誌より）

昭和30年代の「岡山県教職員録」には、出身校と学部名、それに卒年が記入されていた。学校の宿直勤務の夜に、この職員録で北九州大学卒業者を探した。数人発見したので、早速、同年卒の守屋にそのことを伝えると「声を掛けて集めて一杯呑もう」ということになった。

当時、私は倉敷商業高校の教員で倉敷のことは詳しかったので、市内の飲み屋「四季よし」を予約した。集まってきたのは大橋（倉敷西中学校）、守屋（里庄中学校）、遠藤（落合高校）と私（玉島中学校）の4人であった。

大橋氏を会長にし、守屋と私でそれぞれ会計と庶務を受け持つことに決定し、遠藤氏は住居が県北にあって遠いので役なしとした。